

カンキツかいよう病

【学名：*Xanthomonas campestris* pv. *Citri*】



【被害と発生生態】

- ・発生部位…葉・枝・果実
- ・発生時期…春葉の展開と同時に発生，果実の発病は7～8月がピークになります。
- ・発生好適条件…葉の気孔およびミカンハモグリガの食害痕やトゲ傷から感染しやすく，台風等の強風雨により感染が広がりやすいです。

【見分け方】

- ・茶褐色の円形病斑で，中央からコルク化して盛り上がり，火山の噴火口のように窪みができます。葉では病斑の周囲が黄化します。

【対策】

- ・風雨で感染が拡大するため，風当りの強い園地での栽培を避けるか，防風対策として防風ネットや防風樹をほ場に設置してください。
- ・発生源となる罹病葉，枝は徹底的に取除き，ほ場外で処分してください。
- ・新梢はミカンハモグリガの被害を受けやすく，本病に罹病しやすいので，春枝および夏秋梢剪定をこまめに行ってください。
- ・発芽前（2～3月）から5月頃までにボルドー液や銅剤などで予防散布を行ってください。また，台風等の襲来前1週間以内の防除を徹底してください。